

## 第4回（令和7年度第4回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和7年8月26日（火）午後2時～4時

2 場 所 府中市役所おもや4階第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員13名

池田和彦委員、市村忠司委員、稻津和彦委員、江崎章子委員、榎本成子委員、  
梶野光信委員、佐野洋委員、島田文江委員、杉原正枝委員、田頭隆徳委員、  
立石朝美委員、長畑誠委員、吉垣親伸委員

※ 関川けい子委員、福田豊委員 欠席

(2) 職員7名

矢ヶ崎文化スポーツ部長、古田文化スポーツ部次長、平澤文化生涯学習課長、  
斎藤文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、栗原主任、高橋事務職員

(3) 計画策定支援業務委託事業者2名

株式会社都市環境計画研究所 庄司氏、森氏

4 報告事項等

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第3回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 第4次府中市生涯学習推進計画策定に係るアンケート調査実施概要（案）

ウ 資料3 府中市の生涯学習に関するアンケート調査（案）

エ 資料4 府中市の生涯学習に関する若者WE Bアンケート調査項目（案）

オ 資料5 第4次府中市生涯学習推進計画策定に係るヒアリング実施概要（案）

カ 資料6 第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング ヒアリングシート（案）

キ 資料7 第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング 事前アンケート（案）

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、一部修正の上、市民に公開することが了承された。

5 審議事項

(1) 第4次府中市生涯学習推進計画策定に係るアンケート調査について

会長： 前回の審議会では、現行の計画の課題についてグループに分かれて、付箋を使ってまとめてきた。

その中で色々と質問が出てきたが、特に市に対する質問については今後の審議にも役立つことだと思うので、次回以降の審議会でその回答を共有してもらい、議論の参考にしていきたい。

また、そのとき挙げられた一部の意見については、アンケートの中にいかされているものもあることを承知おきいただきたい。

前回の審議会後、今回の審議会前にアンケートとヒアリングについて委員の意見を募集したが、特になかったとのことだった。

まずは、アンケートに係る資料2から資料4までの説明を事務局からお願ひしたい。

事務局： 資料2について、アンケート調査の目的は、1ページのとおりで、市民アンケート調査と若者WEBアンケート調査の2つの調査を実施する。前回の審議会で市民アンケート調査の実施方法について、「対象者を絞って母集団を明確にしてほしい」、「生涯学習施設の利用者や生涯学習の活動をしている人の意見を聞きたい」という意見があった。今回のアンケート調査は、府中市の生涯学習の現状と課題を把握するため、市民に広く回答をしていただく必要があり、住民基本台帳から市内在住18歳以上3,000人を無作為抽出して調査を行うこととなっている。

また、生涯学習の施設の利用、生涯学習の活動への参加の有無などについての設問を設け、クロス集計を行うことにより市民の属性に応じた集計ができるものと考えている。生涯学習の施設を利用し、生涯学習の活動に参加している人の更に詳しい意見については、別途実施する団体ヒアリングで聴取したいと考えている。

また、若者WEBアンケート調査について、前回の議論の中で中学生にも調査を行ってほしいという意見があった。教育委員会事務局の担当部署に確認したところ、全校生徒を対象に実施することは可能だが、生徒会など特定の生徒だけに調査を行うのは難しいとのことだった。また、WEBアンケート調査の内容を検討する中で、大学生と中学生が同じ設問に答えるのは難しいということが分かった。別途中学生用のアンケートを作成し、全生徒を調査することは、今回の調査目的からやや外れてしまうことから、当初の計画どおり大学生と高校生を主な対象として実施をしたいと考えている。

本アンケートの調査期間及び調査項目作成の視点については2ページ、アンケート回収率の向上策については3ページを見ていただきたい。また、4ページと5ページは、市民アンケートにおける調査項目の一覧となっている。

次に資料3について、これは、実際に市民に郵送して回答していただく調査票の案となっている。回答方法については、1ページに記載のとおり、紙の調査票による郵送回答のほか、インターネットによる回答もできるようにしている。2ページ以降が設問となり、最後の12ページに回答者の属性及び自由意見欄を設けている。設問は全部で27問あり、回答の選択によっては回答しないことのある設問も含まれているため、最低で18問の回答が必要な設問となっている。

内容に応じて大きく4つの区分にまとめている。第1は「生涯学習の現状について」、第2は「府中市の生涯学習の施策等について」、第3は「生涯学習の成果について」、第4は「市民協働を通じた生涯学習について」とし、個々の具体的な設問、選択肢、回答方法については、記載のとおりとなっている。

次に資料4について、これは、インターネットでの回答を前提としたアンケートとなっている。二次元コードなどを記載した回答フォームへ誘導するためのチラシなどを別途用意して、対象者に配布することを想定している。

内容については、大きく「学びについて」と「地域のことについて」に分かれており、全部で13問を用意している。回答者の属性については「あなた自身のことについて」とし、4ページに記載している。

その他、補足があれば株式会社都市環境計画研究所より説明をもらいたい。

事業者： 資料2の4ページ、5ページに、資料3の調査票の設問の一覧表がある。例えば、問7の市の生涯学習に関する情報をどのように得ているかという設問の下の網掛けの部分に、グループワークにより選択肢を追加修正と記載しているように、前回のグループワークや審議会で出た意見をどこに反映したかということを追記している。こちらも含めて確認いただきたい。

会長： 全体像を再確認すると、大きく分けて2つの調査がある。1つが住民基本台帳から18歳以上の3,000人を無作為抽出した調査で、これは紙ベースで郵送をし、回答はそれを返送するかインターネットでもできるようになっている。

もう1つは若者WEBアンケートということで、市内の高校、特別支援学校高等部、大学、プラットの府中学生若者ネットワーク参加者というものを作成に依頼をするものになっている。これは全てWEB調査ということになる。

本日は、この調査の内容について意見をいただいて確定をしたい。文言などで決めきれないものがあれば、正副会長、事務局に一任していただく形でできたらと考えている。

質問票の設問が27個、若者の方は13個程度の設問があるが、順番に進めていき、それぞれ意見をいただきたい。その上で、最終確認としてこのアンケートの配布・回収方法、回答率向上についての意見等もあれば、お願いしたい。

資料3の1ページは説明なので、設問のある2ページから検討したい。

まずは「生涯学習の現状について」、生涯学習の経験などの現状についてお伺いしますということとなっている。

生涯学習の定義が四角の中に書いてあるが、「ここで言う生涯学習とは豊

かな人生を送るために、“誰もが” “いつでも” “どこでも” 生涯にわたってできる多様な学習のことです」ということで例示も記載されている。

この部分については大事なところで、最初なので皆が読むと思う。これを読んで何かつまらない、読んでもよく分からなくなってしまうと先に進んでいただけないと思うので、何かお気づきの点があればお願ひしたい。

生涯学習には色々な種類があると思っていただきたいので、このような書き方をしている。例示はしてあるが、問1の中にはもっと具体的に入っている。何かなければまた後にでも発言していただきたい。

問1「どのような生涯学習をしたことがありますか」という設問だが、当てはまるもの3つまで○とある。事前に事務局と打合せをした際に数を限定しなくて良いことにしたと思っていたが、どうだったか。

事務局： 事前の打合せでは、選択数を限定せず自由にいくつも選べるようにしたらどうかという話があったが、たくさん○を付ける方が多くなってしまうのではないかということを懸念し、3つまでの案に戻させてもらった。これについても審議会の方で意見いただければと考えている。

会長： 3つに限定するとなると、たくさんやっている人はどうやって選ぶのか困ってしまうと思う。生涯で1回しかしたことがないものは選ばないかもしれないが、割と頻繁に色々やっている人に、その中で3つを選んでもらうようにする意味がないと思う。集計するときに1人いくつ選んだかというのを数えられるだろうし、最終的には例えば1について何人の人が選んだかを数えていけば良い話ではないか。

委員： 3つに絞らない方がいい。例えば、3つしかやっていなかった人と10個やっていた人がどのぐらいのバランスでいるか、生涯学習に接する機会をこのデータから見るという点では意味があるので、3つに絞るという合理的な理由はあまり感じられない。

会長： ではこれは当てはまるものは全てに○としたい。

委員： 最初の四角の中の生涯学習の定義のところに戻りたい。上段の2行は良いと思う。生涯学習を設定する側、例えば生涯学習センターでどんな講座をしようかなどの話をすることがこの審議会では多いが、いざ市民が質問として聞かれたときには、立場が違う。自分が何をやりたいか、自分が何をやりたくてこれをしているというような中で、生涯学習として意識していないけれど何かをやっているという人がいるかもしれない。そういう部分を、生涯学習としてすぐった方が良いのではないか。それがいつもこの審議会で論議さ

れている生涯学習につながる動きではないか。何も制限なく3,000人の市民のサンプルを取るのなら、市民の立場で答えられる言葉の方が良いと感じている。

会長： とても大事な視点だと思う。具体的に考えていきたいが、この四角の枠の中の最初の2行は良いとして、生涯学習の例示を見たとき、特に生涯学習を考えたことのない方が、自分もこれをやっているというように思っていただけるような例示が何かあれば意見が欲しい。

委員： 下の問1で、どのような生涯学習をしたことがありますかと、色々な項目がある。正に、それはこの例の中に入っていると考えられるのではないか。グループピングの問題があるかもしれないが。

会長： 紙ではなくWEB上でアンケートを見る場合に、この最初の四角に書いたものを見た後に問1に進むので、問1まで見てくればこういうものも生涯学習だと思ってもらえると思う。

例をたくさん入れ過ぎても読んでくれないかもしれないとは思うが、これは入れておいた方が良いというものがあれば、意見を出してほしい。

今なければまた気付いたときに発言していただきたい。

問1については先ほど話にも出たが、ここに書いたような表現で市民の皆さんのが理解できるかどうかという視点で見ていただければと思うが大丈夫か。審議会委員は生涯学習という視点で見ているとは思うが、どうか。

実はこの前の案では、8番は「子育て」ではなく「育児」になっていたところ、最近は「育児」ではなく「子育て」という言葉の方が良いのではないかということで直してもらった経緯もある。そのような感じで何か気が付いたことがあれば意見をお願いしたい。何かあれば、また後で戻って発言していただきたい。

次に、問2以降は問1の中でしたことがあるという1から11までを選んだ人のみ答えていただくものである。問2は方法となるが、これも3つまでではなく当てはまるもの全てに○をしてもらって良いのではないか。優先順位は付け難い。

委員： 普通に生きていたら、5、6項目はあるだろう。3つまでとなると迷ってしまうと思う。

会長： ここも当てはまるもの全てにする。この質問は前もあった質問である。

委員： 前計画との比較をどこまでやりたいかということを考えるのか。前の意図

と今回の意図との違いを確認した方が良いのかと思った。

また、前回の調査は、配布が2,000票に対して666票で33.3%となっている。

今回は1,000人ぐらいの回答を想定して作ろうとしているのかなど、その辺りを教えてほしい。10年前とどう比較するのか、比較をどこまでして市としてどうしたいのかを聞いた上で議論するのが良いと思って聞いていた。

会長： 前計画時のアンケートから大きく変えたところはあまりない。どのくらいの回答率を考えているのか、また、回答を3つまでに絞らなくて良いという意見が強かったが、逆にこれは3つまでにして比較をする必要があるということがあるかどうかについて、事務局から教えてもらいたい。

事務局： 今回調査票の配布数は3,000として、前回の2,000よりも多く設定をした。回収率については実際にやってみないとどれぐらいあるか分からぬところもあるが、前回が33%なのでそれを上回る回収率を実現したいと考え、回収率は40%程度と見込んでおり、結果として1,000人程度のサンプルが得られれば、分析するのに十分なのではないかと期待している。

前回の調査との比較という点では、経年変化を見るという設問については、資料2の最後の設問項目をまとめた一覧を見ていただくと分かるとおり、問7ということをしている。

その部分については必ずしも選択肢も重視しているわけではなく、前回からの変化は追うが、現在の課題がどこにあるのかということを見ていきたいと考えている。後半は設問を入れ替えたり、前回にはない設問も増やしたりしている。

また、前回は「生涯学習」などの言葉の認知度という設問があったが、今は外すべきではないかという意見もあってそこは削っている。

委員： 例えば、力を入れているものから順番に番号を書いてもらうというような工夫をするのはどうか。比較するなら上位3つとして、過去と比較するというやり方もあるかと思った。ただ、答える側からすると難しいかもしれない。特段こうした方が良いという意見があるわけではないが、折衷案としてそういう考え方もあるかと思った。

会長： 問1と問2については経年変化を見なければいけないわけではないのであれば、前と変わっても、むしろ現代の全体の実態を知るという意味では、どういう方法でやっているのかについて、全部上がってきた方が良いと思う。そのため、1と2は全てに○ということにする。

委員： 先ほどの委員が言っていたように、レベルを付けて回答してもらうことも

大事だと思う。ただ平板に、同じ設問を並べて、割合が増えた、減ったということではなく、例えば、一番長く続いているものは何かとか、続けてやっているものは何かとか、最近新しく始めたものはないかなど。例えばリスクリソースなんていうのは、生涯学習だと思っている人がいれば、そんな回答もあるかもしれない。

委員： リスクリソースは少なくとも 10 年前にはない言葉だった。

委員： それが今度は出てくる可能性があるし、伝統的なものではない、新しいよさこいみたいなものが出てくるとか、今までとは違ったトレンドが見えることがあると思う。同じ設問設計の項目の中から、選択肢を変えることで、見えてくるものがかなり違ってくると思う。その辺りを有効に活用することはできないだろうかと思う。

会長： 特にそれを知りたいのはどの部分になるか。問 1 についてか。

委員： 審議会の中でやってきたが、生涯学習が個人の趣味にフィードバックされることではなく、地域に還元できることに変わってきたという話があるので、例えば問 1 でもそこの部分をデータとして捕まえるような項目があっても良いのではないか。アンケートの中で、私達が議論してきたことの検証もしたい。平板な数字の比較だけで終わってしまうともったいないと思っている。

会長： だからこの問 1 に上げられているものを単純にやったことがあるものに○を付けるのではなくということだと思うが、どういうようにそれを分けたら良いか。というのは、最近始めたものを聞くとなると、時代の変化もあるが、その人の年齢の変化もある。一概に時代の変化と言いつらい部分もあるので、そこは少し難しいと思う。

委員： 年齢とのクロス集計があれば良いのではないか。

会長： 確かにそうである。最近始めたこと、長くやっているものなどを年代で分析する。

委員： 今、問 1 と問 2 は過去のことを聞いている。基本的に学習は過去と現在の未来と分けられる。ここで聞いているのは過去の話である。最近始めたとか続けているということになるとまた別の質問になるのではないか。問 1 と 2 は今までしてきたことは何かということである。もし続けているとか、途中で始めたとか、そういう時間軸が入ってくると説明が複雑になる。

この手のアンケートは最初の質問が難しいと答えない。なので、最初の質問は、平易なものからだんだん難しくなった方が回答率は上がるのではないかと思う。

会長： 今現在やっていることなどそういう話はここには入れないでおくという考え方もある確かにある。あるいは、問1の中にサブの質問として最近始めたものは何かということを入れられないことはないのかもしれないが、答えるのが面倒くさくなるかもしれない。最近始めたことは何かということを聞けないか、可能性の1つとしてどこかに入れられるなら入れるということで今は置いておく。

問2については、方法を聞くものなのでこれは全部聞くしかないと思う。

問3から先を見ていくと、本人の中で優先順位を付けてもらって3つを選んでもらうという形でいいと思う。どのようにいかしているかが問3、問4はよく利用する市の施設を3つまでということである。

新しい質問として問5があり、現在グループで学習や活動する組織に参加していますかということを聞こうということになっている。個人で学ぶだけではなくてグループで学んでいる人、活動している人がどのぐらいいるかということを知りたい。

この辺りで意見はあるか。なければ次の4ページ目に進む。

問6は、問1でしていないと回答した方のみ、なぜしていないかという理由を3つまで選ぶものである。これは前もあったものだが、今回少し選択肢が増えている。

次の問7、これは市の生涯学習に関する情報をどのように得ていますかというもので、こちらも、前回と同じ質問で、選択肢が少し増えている。

委員： 問7の選択肢10「生涯学習だより」とは何のことか。

委員： 3か月に1回、悠学の会が企画・編集し、文化生涯学習課と生涯学習センターが発行している生涯学習の情報誌のことである。この審議会でも配布している。

委員： 少し戻るが、問5について、この設問は重要なのか。この設問は無駄ではないかという気が少ししている。この設問ではなく、問1、問2の新しい視点を入れた設問を入れるなどを検討してはどうか。問5は設問としてもったいない。

そもそも、問5を聞く意味は何なのか。グループ別にヒアリングをするはずである。前回の審議会で、活動をしたことがある人にアンケートをしてほしいと言ったが、団体に聞けば十分聞けることであった。3,000人に配布し

て500、600しか回答がないのにこの設問を設定するというのは、もったいないと感じる。

事務局： 生涯学習を振興していく上で、生涯学習に取り組む団体が活発になっていくことが必要であると考えている。前回の調査では団体についての設問はなかったので、実際にこういった社会教育関係団体を始めとしたグループなどに参加している市民の方がどれぐらいいるのか、また、団体も非常に多様化していて市の方も把握しきれていない部分もあるが、そういうグループ活動にどれぐらいの方が取り組んでいるのかを把握したいという意図で作った設問となっている。

会長： 私は聞いてみてもいいと思った。やはり個人ではなくグループとして活動している人がどのくらいいるのかということを把握しておけば、そういう人たちがどのようなニーズを持っているのかということにもつながってくるかもしれない。何%ぐらいの人が答えるか分からぬが。

委員： 個人での活動と言っているが、例えばバスケットボールとかテニスをやっているのは、個人でやるのかというと変である。日本舞踊やお囃子はどうか。NPOで参加して教えてもらっているのか、講座に出て教えてもらっているのか、それともその筋の先生や師範について教えてもらっているのか、民間のどこかで教えてもらっているのか、そういうところを聞いていかないと、ただグループに参加したことがあるというような選択肢で、NPOや講座など何も書いてないただこの3つの選択肢で聞いて、どう分析するのか。

会長： 一応どのような組織かを書くようになっているが、難しいかどうか。どのような組織ということをどのように答えるか。

委員： 例えば問4に、生涯学習を行う中でよく利用する市の施設という設問があるが、これも漠然としている。自分がそこで何かを受けに行く、参加しに行く場所はここだと、4番と5番を合わせたような設問にすると1個消化できる。何にもつながっていない5番の設問が1個節約できて、他のその後に使えるようなものに差し替えることができると思う。問4は府中市内だけの話となっているが、府中市内で何かをやっているのかどうか、ここは府中市内での生涯学習を考えるわけだから、生涯学習を行う中でよく利用するという前段の文章をもう少し具体的に、「あなたが例えば生涯学習だと思って活動していることをやったことがある市内の施設はどこですか」というようにもっと平板な、分かりやすい表現にしたらどうか。

会長：問4は基本的には生涯学習を行う施設なので、例えば美術館によく行っている人が、自分が行くことが生涯学習だと思っていたら美術館に○を付けるはずだ。そういう○の付け方だと思う。

問5の新しい設問は、基本的にはグループで何か学習や活動などをしていますかという問い合わせなので、少し違うと思う。

委員：その視点では違うとは思う。しかし、これが参加という形なのか、要するに主体的にやっているのかどうかとはまた違う。グループで学習や活動をする組織に参加している、主体的に能動的に自分で活動している、例えば子育てのサークルに入って読み聞かせをやってみるなど、そういうことを言っているのかどうなのか。

会長：私はそこまでは聞いてないと思う。あくまでグループで、それこそ子育てについて学ぶ学習会に参加しているだけでも良い。つまり自分が教える側や企画する側にいなくても良いと思う。

委員：府中の生涯学習の中では学び返しというキーワードがあるので、その中では、過去に参加していた、参加している、参加していないという選択肢だけで何が分かるのか疑問である。

会長：学び返しについては後に出てくる。個人が図書館に行って勉強をする、美術館に行って色々と刺激を受ける、個人で散歩をしたり、スポーツをしたりするということもあると思うが、そうではなくて、グループで何かをやっているかどうかを聞きたいだけだと思っていただきたい。

図書館で何かのグループに所属して活動する人もいるだろうし、図書館で1人で色々調べるという人もいるので、そこを分けるために、この設問を入れたということである。

私はどちらも否定はしないが、個人に対するサービスも大事だが、これからはグループでやっていることをよりプロモーションしていくこうということも大事であると、今までの審議会の答申でもそういうことがあったので、あえてここに設問を入れたということである。

委員：問4の施設の中でも、個人利用が前提となっている施設と団体登録をしないと使えない施設があると思う。先ほど事務局から社会教育関係団体という言葉が出たが、グループ登録をしないと使えない施設もあると思うが、それが今飽和状態なのか、もっと施設をグループで活用してもらいたいと市側が考えているのかということが知りたいのかと考えていた。

会長： グループ活動の現況を知りたいということである。一旦置いて次に進める。

次の5ページ目からは「府中市の生涯学習等の施策等について」ということで、新たな区分となる。問8はどのような生涯学習の活動に参加したいかという設問だが、これは優先順位を付けて3つまで選ぶということである。

次に、問9は新規で、どのような場所で参加したいかというのを3つまでということで聞いていく。今まででは場所について特定して聞いていなかったので今回新しい設問となる。

次に6ページ目、問10も新規で、今後市の生涯学習センターの移転等再整備をするが新しいセンターにどのようなことを望みますかということで、選択肢も全く新しいものになっている。これも3つまで○をすることになっているが、何かこの中に入れといた方が良い選択肢とかがあれば発言してほしい。

問11も新規で、文化センターで利用したことのある施設はどれですかという設問と、その次の問12も、地区公民館としての文化センターについて、充実して欲しい機能やサービスはということで、問11と12は文化センターに関する設問ということになる。

6ページについて何かお気付きの点があればお願ひしたい。

委員： 問12の7の「レファレンスサービス」には注釈を付けた方が良い。

会長： 確かにそうである。

次の7ページ目、問13も新規の設問となっており、図書館について1つ設問を追加している。その先の問14から問16までは今までと多分変わらないものとなっている。

委員： 問13の選択肢12の「YA（ヤングアダルト）」も多分説明をしないと分からない人が多いのではないか。若い世代を図書館に呼ぶために作られた言葉だが、説明を入れないと分からないと思う。

委員： 新規案の問12 レファレンスサービスについて、今は「レファレンス」ではなく「リファレンス」というのではないか。言葉が古いように感じる。企業の採用でも、リファレンス採用という言葉が使われている。

委員： 図書館では「レファレンス」で使っているのではないか。

委員： アカデミックな言い方なのかもしれない。しかし、一般的には多分使わない。

委員： それはカッコを付けるとか工夫する必要があるかもしれない。

会長： 2つとも図書館の文脈で出てきているので、注釈を入れておく。

委員： 問12の選択肢4の「ＩＣＴ」についてはこのままで良いか。

会長： 問12の選択肢4と問13の選択肢9に出てきているので、これも一応注釈を入れといった方がいいかもしれない。

委員： ＩＣＴは大丈夫だと思うが、レファレンスやヤングアダルトについては、逆に読みやすい言葉で設問に入れて、単語を注釈でいたた方が良いのではないか。ぱっと入ってきた言葉がその時に分からないと、誰も答えたくなくなると思う。

自分なりに1問目から回答してみたら、ちゃんと進められた。しかし、問10くらいから専門的な言葉が出始めたので少し詰まってしまった。まずは分かりやすい言葉で書いてあった上で、こういう単語で言いますという注釈も一緒に入れておくと、それもまた学びになってありがたいと思う。

会長： 問12からＩＣＴが出てきているが、カッコ内のWi-Fiについては、さすがに注釈はなくても良さそうである。レファレンスサービスを逆に他の言葉を使って書いてみるとことになるがどうか。

委員： そもそもレファレンスサービスとは何なのか教えてほしい。

委員： このことについて調べたいと図書館の司書へ言うと、文献等を調べてくれる。なかなか使われていない機能だが、大学の図書館だとそちらの方が主である。例えばPTAの歴史を調べたいというような時に、どういう文献が過去にあったのかなど、そういうことをリスト化してほしいとか、そういう相談に乗ってくれる。

委員： とても良い機能だと思う。これは司書がやってくれることで、AIがやっているものではないのか。

委員： ネットで検索する場合もあるが、町の歴史を知りたいなど、更に古い文献だとネットでは追えないことがある。

委員： そのレファレンスサービスという言葉がどこまで浸透しているのか分からぬが、何か分かりやすい言葉があるか。ヤングアダルトにしても、勘違い

されやすい言葉なのではないか。

委員： レファレンスサービスは、図書館では「調べもの相談」というような言い方はしていそうだ。

会長： 指摘があった点については最終的にこちらで考えさせてもらうということは良いか。また、同じように何かこの言葉が気になるということはあるか。

委員： 問14について、全部言葉がぶつ切れしているように思える。選択肢4の「学習活動のための施設」をどうするのか。この後ろの文章が必要ではないか。

会長： 充実してほしいサービスなので、施設を充実してほしいというように読めると思うが。

委員： ここの選択肢は、私達が問題、課題だと考えている言葉だと思うが、それを答える市民の人の言葉になっていない気がする。

会長： 問14で分かりにくいのものとしたら、確かに4は少し分かりにくい。

委員： 3も分かりにくい。

会長： それでは、3と4については少し表現を変えたいと思う。

では次に8ページの「生涯学習の成果について」に行きたい。

ここでは、学び返しのことに触れていて、問17で学び返しをしたことがありますかという設問があり、ある場合はどんなことをやったかという自由記述で、その後問19でいかしたいと思うかどうかということになっている。この辺りは前回とほとんど一緒の形となっている。

9ページ目の問22までが学び返しに関する話、問23がウェルビーイングというものについて聞きたいということで出している。ここだけなぜか5段階で選ぶということになっているが。

問23について、これを聞いて何が分かるのだろうかとも思ったので、補足いただきたい。

事業者： 新たに設けたウェルビーイングに関する設問だが、これはどのくらいの幸福感を感じているかということで、知識や技能が身に付いたときと、実際に誰かに役に立ったとき、そして地域と関わっていったときという感じで、自分のことからだんだんと対外的に学びが広がっていったときの幸福感を聞

こうと思って入れたものである。

他の自治体でも同じような設問を作ったことがあるが、おおむね幸せを感じている人が多いが、地域に広がっていくにつれて、幸福感を感じている方が少なくなっていくといった面白い結果があり、そういう傾向が今回も見えたなら面白いのではないかということで入れさせてもらった。その件について、ここにはそぐわないのではないかなどの意見があれば、指摘いただきたい。

会長： この設問の難しいところは、実際の経験を聞いているのか、それともこうなったら充実感を感じると自分が思うのかと聞いているのかということ。特に例えば（3）については、こういうことがあつたら充実感を感じるだろうなと思って1にする人と、実際に自分がやってみたらそうだったと思って1にする人では何か意味が違うような気がする。

委員： 私もそう思う。流れが違う。ここの選択肢そのものが独立する危険性がある。

知識や経験が身に付いたときに充実感を感じるという部分でも、例えばフランス語がしっかりと話せるようになったということで充実感を感じるという生涯学習の意味合いなのか、自分の仕事のためのフランス語なのか、勉強のフランス語なのか分からぬ。

府中市での生涯学習の今までの流れの中では独立、分離してしまうような気がする。ウェルビーイングを聞くことそのものがとても難しいもので、設問1つでその回答が得られるようなものではないと私は思う。それはもう単独のアンケート調査でやるべき事柄であって、ここに唐突に入らなくても良いのではないかと思う。

会長： 例えば、（1）の知識や技能が身に付いたときに充実感を感じるということを、5の感じない、4のあまり感じないという人が多かったときに、これはそんなことを大事だと思ってない人が多いと言うべきなのか、それとも本当にそういう充実感を得る機会がなかったから感じないのか、どちらか分からぬ。この答えをもらっても、分析しづらいのではないかと思う。

事業者の方で提案してくれたものだがどうするか。一応この場ではなくてもいいということで良いか。

何かこれに関して意見があれば、後ででも提案していただけたら正副会長の方で考えるが、どうか。

委員： あつた方が良いという立場でもないが、もしこの設問を残すということであれば、他の自治体で同じ調査をした事例があるのなら、どのような結果が出ているかを含めて見せてもらいたい。他の自治体との比較ということで教

えてもらえると、どのような感じで出てくるのか分かるかと思った。市として残したいというなら、示してもらえたと思う。

委員：あとは質問の前後の流れもあると思う。

事務局：事業者の方からの提案もあって今回入れたが、やはり生涯学習を通じてどこを目標にしていくのかという時に、1つの方向性としてウェルビーイングを目標として持つということもあり得ると考える。

全国的に1つの方向性として提起されているところもあるので、こういった設問を取り入れることは他の自治体との比較という点でも意義があると考え、これを取り入れた。

会長：聞くこと自体が嫌だというわけではないが、私がこだわっているのは、設問を読んだときに、自分はそういうことがあったら感じるだろうと思った人が1を付けるケースと、本当にそういうことをやってみてそう思った人が1を付けるケースで、意味が違うことが気にかかっている。もう少し文章を考えて、本当に実際にそれがあったかと明確に聞かない限り、難しいのではないか。

こちらについては、預からせていただき、どうしても残すということだったら市の方で文章を変えるということで良いか。

委員：国の生涯学習の文書にはウェルビーイングのことがよく書いてあるので、そういったことも市としてあるのかもしれない、総合的に検討してもらいたい。

会長：では10ページに進める。10ページからは「市民協働を通じた生涯学習について」ということで、問24は生涯学習サポーター、問25はファシリテーター・サポーター養成講座についてとなっている。

問26は新しい設問となる。問25も実は前回は聞いていなかったが、問24と類似のものである。

問26は全く新しいもので、地域学校協働について聞くものとなっている。そして最後の問27は市民協働を通じて府中市やお住まいの地域がどのような姿になつたら良いかということで、これも新しい設問となっている。

問24と問25は前からつながっているが、問26と問27に出た意図についてちょっと事務局の方から追加で説明いただきたい。

事務局：生涯学習の活動を振興していく方向性として、市として現在重視しているのは市民協働ということなので、それに関わる設問を設けられないかという

ことで、設問と共にこの章を作った。

特に学校については今まで注目して来なかつた部分で、学校との関係ではこのような設問が考えられると事業者から提案もあり、この設問を1つ入れた形となっている。

問27については、正にその市民協働と生涯学習の関わりについて、市民の方のご意見を聞くような設問とした。

前計画では、学び返しということが大きなキーワードとなってそれに沿つて構成されていたが、今回は市民協働を重視する形で最後まとめた形となっている。

会長： ファシリテーターとサポーターについては、今までやってきてのことなのでこのように聞いても良いと思うし、学校協働についても、これを通じて生涯学習とのつながりも見えてくるのではないかと思うので、こういう設問があつても良いと思う。

しかし、問27については、これは私だったら1から5までのどれに○を付けるか迷ってしまうと思った。全部ではないかとも思うがどうか。

1番に何人とか、2、3番が何%でということが知る意味があるのかと思つてしまつた。

ただ、アンケートはその答えを分析するだけではなく、こう聞いたということ自体が意思表示みたいなものだと思うので、市民協働を通じて市はこんなことを実は考えているということを、アンケート結果を出すことによって、見た方に分かっていただくという意味があるというのであれば、このような選択肢があつても良いのではないかとは思う。

委員： まず、地域学校協働活動のところだけ※印がついているが、これはいらないのではないか。この問24、問25、問26の下の説明を※印という意図で作られているのか。この2段にしてある意味を確認したい。また、コミュニティ・スクールの話は、国は確かにこういう言い方をしているが、府中市の教育委員会の考え方方がどうなのか、「コミュニティ・スクールと一体的に推進されることが望まれています」というような表現は少し引っかかる。

会長： 少し表現が分かりにくいので、ここはこちらでチェックしたいと思う。

委員： 問26について、見守りやあいさつ運動、体験活動ボランティアは、学校の現場で見守る方の高齢化や、なり手不足、一斉指導では勉強が分からぬ学習支援が必要な子供もいたりするので、これは必要なものだと思っている。コミュニティ・スクールでもなかなかマッチングができない現実があるので、この質問をすることは良いと思っている。

委員： コミュニティ・スクールは府中市にはあるということで良いのか。

委員： ある。

委員： 自治体によってはコミュニティ・スクールに移行したくないというところもあるので気になった。

会長： 最後のページは「あなた自身について」なのでこれは市の方で大体今までと同様な形で分類していると思う。特に気になったことがあれば言っていただきたい。市内の町名も全部入っているはずだ。

委員： 先ほど市外が出て来なかつたか。

会長： 学ぶ場所の部分では市外の選択肢はあった。住んでいる場所については全員府中市の方なので大丈夫である。

委員： やはり問26、問27はどうかと考える。

会長： 問26は参加したいという方が多かったら、それはそれで良いことだと思う。

委員： 設問のばらつきが大きい。問26の設問の見守り、あいさつとコミュニティ・スクールについては違うものである。読んだ人のレベル差が発生するのではないか。

会長： 本当に聞こうと思ったらもっと細かく聞く必要があるとは思うが、単に参加したいと思うかどうかぐらいの聞き方で良いのではないか。

他になければ、若者のアンケートの方に進める。

資料4について、初めに確認だが、WEBアンケート調査項目という資料だが、これはどういうもので、何のためにやって、皆さんの回答はどういかされるなどの鏡文のようなものはないのか。

事務局： 資料4は調査項目のみのとなっており、実際に回答フォームを作成する際にはそういったことを入れることは検討したい。また、チラシなどで周知する際にそういったことが分かるような形で調査を依頼したいと考えている。

会長： ではその部分についてはお任せいただきたい。

問1の現在学校の授業以外で学んで取り組んでいることということだが、

最初に引っかかった。取り組んでいることはあるかということだが、これは意味が分かるか。取り組んでというのは学んでいること以外のことを言っているのかどうか。何かと思って次の問2を見ると色々出ている。これがその例示なのかと思えるが、これは紙ではなくWEBアンケートなので、問1しか見えなかつたら分からぬと思う。問1と問2が一度に画面上に出てくれば何となるかとも思うが。それとも取り組んでいることという言葉遣いを変えるか。

事務局：問1と問2を一緒に回答していただくという方法もあるかと思う。

会長：取り組んでいることというのは何を聞きたいのか。部活だけではなくて課外活動全般をいうのか。

委員：授業以外だと部活はどうなのか。学校以外ではだめか。

事務局：確かにここについては表現に苦心した。部活をどう捉えるかということがあり、純粋に学校外で学んだり、取り組んだりしていることなのか、学校の中、大学の中でのサークル活動なども含まれるのかどうかというところで悩んだ。一応現在の設問では学校の授業以外でということにしたので、部活やサークル活動も含んだ表現になっている。

会長：確かに部活とまで言わないまでも学校の仲間たちと何か学校でやっていることがあるのかもしれない。ただ、取り組んでいることというのは何を指しているのかよく分からない。子どもたちがこれを読んでどうイメージするだろうか。

委員：学校の勉強以外でということで、何か夢中になっていることというような感じではないか。

会長：学校の勉強以外で夢中になっていること、熱心になっていることなど良い言葉があると良い。

委員：夢中、熱中、一生懸命やっている、興味関心を持ってやっているなどのそういう言葉が良いのではないか。

問2について、選択肢が今の若者目線に立っていないと思っている。例えば漫画とかアニメとか、TikTokとかブレイクダンスとかバンド活動とかはどの選択肢に当てはまるのか。興味を持っている分野に惹きつけて答える選択肢に見直してもらえると良いと思う。

委員： そのときは「その他」で答えればいいのではないか。

委員： そうしたら「その他」ばかりになってしまう。

会長： あとは「その他」まで書いてくれない子もいるかもしれない。

委員： 料理や裁縫の選択肢は選ぶ子はほとんどいないだろう。美術にアニメ・漫画は含まれるのか。美術の選択肢の中に写真があるが、書道が並ぶと余計分からなくなる。舞踊でもブレイクダンスが含まれるのかどうか。今の子たちのダンスの捉え方は自分達の時代と違っている。そこにフィットするような選択肢にならないか。若者の施設で必須なのは、バンドの練習ができる防音施設の利用率が高いと聞く。生涯学習センターにそういう装置を付けるなら、そこから若者の声を実現したと、これから施設につながると良いと思う。

会長： たとえば動画編集などもどこに当てはまるのか。

委員： 記述式ではどうか。

委員： 今の子はそれでは答えない。合うものがどれに当てはまるのか分からないのではないか。今関心を持っている分野のものがどこに当たるのか考えるのが難しいのではないか。

会長： 若者が選びやすい形に考え直すので、正副会長・事務局に一任してもらいたい。

委員： その他で書けばいいと先ほど言ったが、その他で色々と意見が出る。それがピックアップされて色々なものがあると把握はできるのではないか。

会長： その他は否定しない。ただ、何でもその他にしてしまうと、そこに書くまで至らない人もいるのではないか。先ほどの動画編集などとか、それが選択肢にないとその他にも書かないかもしれない。ある程度予測しておく必要がある。ただ、全ては予測できないので、その他も入れておく。

委員： スマホで答える子が圧倒的に多いはずなので、記述式を面倒くさがる傾向がある。スマホで回答しやすいものを考えた方が良い。

会長： 問2は再度検討する。問3は頻度、問4は取り組んでいない理由、問5が

現在学んでいること等を仕事や社会にいかしたいか、問6はあえて社会について聞いてみようということ。別案もあるが、少し難しいのでこれの方が答えやすいのかと思う。問7のこれから学びたいことなので、問2と連動する。問8は場所を聞いている。

委員：問8に学校という選択肢がないが、入れておいた方がいい。

会長：確かに、大学生であればその選択肢がある方が良い。

次の大きな塊として地域のことについてということで、4問ある。初めての試みなのでまずはやってみるということで良いか。

委員：WEBについてはよく分からぬが、WEBで回答すると名前が分かつたりするのではないか。

事務局：名前が分かるものではない。IPアドレス程度は分かるかもしれないが、それ以上の個人情報は聞かないので分からない。

会長：答える若者が大丈夫だと思ってくれるような書き方をする。回答者が特定できるようなことはしませんというような言葉を入れる。

委員：母集団はどうなっているか。

事務局：対象については、資料2の1ページの下部に記載がある。

会長：府中市に在住・在学の若者（高校生～大学生）のうち、連携機関や市のネットワークを通じて依頼可能な学校等を対象に実施する。具体的には、今後の活動につながる層である、市内の都立学校に通学する高校生、市内特別支援学校高等部に通う高校生、連携協定校に在籍する高校生・大学生、プラツの若者ネットワークに参加する若者ということとなっている。

委員：府中市から市外の学校に通っている人は対象か。府中市内の学校の人だけか。

事務局：府中にある学校に通っている人が対象で、市外の学校に通っている人は対象外だが、プラツの若者ネットワークに参加していれば対象となる。

委員：問12について、市は聞きたい質問だとは思うが、高校生が答えやすい質問となっているかどうか考えてほしい。若者が何を知っていて、取り組みや

すいと判断するのか。聞きたい気持ちは分かるが、質問として疑問である。

問13について、これを10代20代に、例えば就職ができるかどうか分からない大学生にこれを聞くのか。違う聞き方にした方がいいのではないか。自由記述で、回答があるのかどうか。

問12、問13は何か工夫が必要ではないか。

委員： 今の問12について、とりあえず1回そのまま聞いてみてもいいと思う。

若者が理解している、理解していないということ抜きで、若者たちがどう感じているかをそのままの感覚で聞いてみてもいいのではないか。そういうようなアンケートの取り方は良くないとか。

委員： 良くない。その結果をどう使うかを考えなくてはいけない。本来は、こうではないかという仮説を立てて設問を作っていく。手前の議論が足りず、これを確認しようということで出てきた質問ではないのではないか。気持ちは分かるが、もらった回答をどこまで信用して、どこまで使えるのか。

委員： 回答の信ぴょう性を高めるために先に議論が必要だということか。

委員： 答えてもらった回答をどう使うのかということ。それが問12、13は回答そのものが曖昧になるのではないか。

会長： 問13は書く人がいたら儲けものと考えてもいいのではないか。問12は1のそう思うという人が全然いなかつたとして、その結果を見て何をしたらいいか分からぬ。もう少し検討が必要である。

委員： 少しあ世辞を言って1のそう思うに付けてみようとか、とりあえず2のどちらかと言えばそう思うに付けておこうかなと軽い感覚で付けられて、良い結果が出てきたからといって私たちが大喜びしてもあまり意味がない。

会長： これは正副会長・事務局に持ち帰らせていただきたい。

委員： 問10と問11について、「府中市の行事やイベント」、「府中市の人から」と書いてあることを、府中市役所の人と勘違いするかもしれない、「府中市内の行事やイベント」や「府中市内の人から」という言い方に変えたほうがいいのではないか。

会長： 意図はそういうことなので、そのように変える。

アンケートについてだいぶ時間を使ってしまったが、持ち帰るとしたもの

については、正副会長にご一任いただけたらと思う。

最初の方に出てきた、問1や問2は過去の質問になっているが、最近やつたものを聞いた方がいいのではないかということがあった。

副会長： 生涯学習について、過去と現在と未来を知りたいということだった。問1では過去の経験を聞いているが、現在やっていることや未来にやりたいことを追加するには、それについて、どこでやっているということがペアの質問となる。ちなみに若者アンケートは現在と未来しか聞いていない。過去がない。過去であれば、「これまでにどのような生涯学習をしたことがあるか」、現在は「どのようなことをしているか」、未来だと「今後どのようなことをしたいか」という表現になると思うが、現在進行形のものだけ問2、問6を付けたらどうか。

また、問19の学び返しについては、問3の中に含めていいのではないか。自分のためにやっていることと、他人のためにやっていることを聞いて、他人のためにやっているという回答で、学び返しのことを実質上集めればいいのではないか。「学び返し」というキーワードに固執していたのは前回で、今回は自分のためにやっているか、他人のためにやっているかと聞けば、学び返しについても聞ける。構造を変えた方が良い。

会長： 「今までやっていますか」、「今やっていますか」、「これからやりたいですか」それぞれ同じ系統の質問で、場所についても聞く、現在の設問では方法と場所を聞く、という形で設問を組み直すという提案である。また、学び返しの中の問19は既に問3であるのでいらないのではないか。この提案も含めて検討してもらう。中身の大きな変更はない、組み換えと、過去現在未来という形にしたいと思うが良いか。それ以外も、持ち帰らせてもらって正副会長・事務局で再度検討したい。

(異議なし)

## (2) 府中市生涯学習推進計画策定に係るヒアリングについて

会長： 議題2のヒアリングについて、資料5から資料7までの説明を事務局からお願いする。

事務局： 資料5について、ヒアリング調査の目的、実施日程、実施内容、ヒアリングスケジュール・対象グループについて記載している。個別ヒアリングは、各分野から選定した社会教育関係団体など、生涯学習に関する10団体に対して実施する計画である。

また、グループヒアリングについては、生涯学習に関する施設が推薦

する各3団体と、当該施設の職員を含めた各4団体に対して実施する予定である。ヒアリングを依頼する施設は、生涯学習センター、市民活動センター「プラツ」、文化センターの3施設を想定している。文化センターは11館存在するが、中央文化センターを想定し、担当部署と調整の上、実施する方針である。

前回の審議会において、委員がヒアリングに同席することについて議論があった。事務局にて検討した結果、ヒアリングは同一の担当者が同日のヒアリングシートに基づいて実施することが望ましく、ヒアリング対象団体が回答しやすい環境を整える必要があること、限られた日程の中でヒアリングを調整する必要があることなどの理由から、基本的には事務局が実施する方針とした。

なお、生涯学習審議会に委員を選出している4ページ記載の4団体（府中市スポーツ協会、府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」、府中市芸術文化協会、府中市立小・中学校PTA連合会）については、対面式でのヒアリングは行わず、各団体にヒアリングシートを配布し、団体内で意見を集約した上で記入・提出してもらう方針である。

続いて資料6について、団体ヒアリングにおいて聴取すべき項目を記載している。項目は次の5点で、1 団体の活動状況と今後の課題及び活動の方向性について、2 ご利用の施設・活動場所について、3 これからを担う新たな会員の勧誘や指導者の育成などについて、4 地域での生涯学習推進において重点的に取り組むこと、5 府中市に対しての要望などとなっている。

次に資料7について、ヒアリング対象団体に事前に記入・提出してもらうことを想定している。ヒアリング内容と重複する部分もあるが、効果的なヒアリングを行うため、各団体において事前に記入してもらうものとなっている。「ヒアリングシート」と「事前アンケート」は、対象団体に依頼する際に事前に配布するものである。

その他、補足があれば、株式会社都市環境計画研究所より説明をもらいたい。

事業者： 資料5について、前回と変わっているところは、1ページ目の下の方で事前調査を行うという部分で、これが資料7のことである。ヒアリング前に回収し、それを基に、資料6のヒアリングシートを用いて質問をしていくという形になる。資料6の団体活動状況の質問の下にアスタリスクのある部分については、説明のための文言で、配付する場合はアスタリスクの部分は外して出す予定としている。

会長： 今日のところはざっと見ていただき、お気付きの点があつたら意見を出し

てもらいたい。実際のヒアリングは10月の中旬から下旬ということで、ヒアリングの事前アンケートを配布するのは9月中旬くらいということであれば、まだもう少し時間があるので、気になる点があれば審議会後にご意見いただけたらと考えている。それを受け、正副会長と事務局で対応したい。

対象候補の団体についても、こういう団体がいいのではないかなど、何かあれば、ご意見いただきたい。

委員： ヒアリングの結果は、生涯学習との関わりの中でどのように結び付けてしてまとめていくのか。

事務局： 前回はヒアリングを施設対象としていたが、今回のヒアリングは市民団体に聞くことにした。方向性としては、様々な団体が生涯学習の活動に取り組むことが大事なので、どういった団体がどういった活動をして、どういうところに課題を感じているのか、市としてそういった団体が活動しやすい環境を作っていくにはどうしたら良いかの課題を探るために、各分野から団体を選んだ。アンケートでは分からぬ具体的な意見をもらいたいと考えている。

委員： 団体の中では、いわゆる取りまとめのような団体もあれば、実際に活動している1団体もあり、凸凹している印象を受ける。

文化振興財団のような全体を見ているような団体はどうか。全体的に幅広く見ていて代表性があつていろんな活動を見ていると思うがどうか。選択はお任せで良いが、単体なところと大きなところの凸凹を感じる。また、全体を通して、前回答申をしているコンシェルジュの検証は今回の調査には入らないのか。

会長： コンシェルジュというのは、市民が学習をしたいと思ったときに相談に乗ったり、色々なリソースにつないだりということ。

委員： また、施設の統合となると、生涯学習センターの施設の中でもそぎ落とされる部分もあるが、その部分は検証しないのか。

会長： 相談機能については、アンケート項目には記載があるが、ヒアリング項目にも入れていく必要はあるかもしれない。単なる場所を提供しているところとしての生涯学習センターではなく、他に何を望むのか、どういう機能を望むのか、ということは聞いていく必要はあるかもしれない。

また、ご指摘の点で、全体を見ている組織にヒアリングをする必要があるのかどうかということ。今回生涯学習センターの人にも話を聞くことになっている。

事務局： 生涯学習センターとプラツツと文化センターは、施設の人と推薦していた  
だく3団体と一緒にグループヒアリングをしたいと考えている。

会長： コンシェルジュの話はそのグループヒアリングで聞けるかもしれない。財  
団の話はそこでも聞けるか。

事務局： 文化振興財団については、芸術劇場や博物館の指定管理者。今回の提案の  
中には入っていないが、個別にヒアリングシートなどで聞くこともできるか  
かもしれない。

会長： ヒアリングの中身については、何かお気付きの点が他にもあれば、1週間  
から10日間でご意見をいただけたらと考えている。

委員： 補足だが、プラツツは、NPO法人エンツリーと文化振興財団が共同で指  
定管理業務を行っている。

委員： ヒアリングは、個別ヒアリング、グループヒアリングとヒアリングシート  
依頼の3種類があり、今回の資料6と資料7に団体ヒアリングシートとある  
が、どれがどれに当たるのか。

事務局： 資料6と7は、個別ヒアリング、グループヒアリングの両方に使用するも  
のである。ヒアリングシート依頼の4つの団体には、事前アンケートは不要  
なので、資料6のみでお願いしたい。

会長： 預かりの部分については、また、正副会長、事務局、事業者を含めて検討  
させていただきたいと思う。ヒアリングについては審議の時間が短くなった  
ので、ご意見があれば1週間から10日以内に事務局の方へ連絡をお願いし  
たい。

## 7 その他

次回の審議会の開催時期について、令和7年12月16日（火）の午後2時から府中  
駅北第2庁舎3階会議室にて開催することで、了承を得た。